



「東日本大震災メモリアルシンポジウム 2023—被災者の生命・健康を守る. 3.11 後の進化—」を開催しました（2023/3/4）

テーマ：東日本大震災、新型コロナウイルス感染症、予防、応急対応、復旧復興

会場：仙台国際センター展示棟、WEB 同時配信

URL：https://irides.tohoku.ac.jp/event/annual_symposium/houkokukai/memorial2023.html

2023年3月4日（土）午前10時～12時、仙台国際センター展示棟で開催された「仙台防災未来フォーラム 2023」の会場内において、「東日本大震災メモリアルシンポジウム 2023—被災者の生命・健康を守る. 3.11 後の進化—」（主催：災害科学国際研究所）を開催しました。

このシンポジウムは、東日本大震災以後、とりわけコロナ禍という特異な社会環境にある現在、災害時の人びとの生命、身体的・精神的健康を支える医療や避難所体制の進化を多角的視座から論じ、これからの被災者支援のあり方、そして新型コロナウイルス感染症対策等への理解を深めることを目的として行われました。

当日は、新型コロナウイルスの感染予防に十分配慮しつつ、オンラインでも同時配信・質問受付をする形式で実施しました。会場に70名以上、オンラインで30名以上の参加をいただきました。さらに、フォーラム会場内の展示ブースにおいて当研究所の最新の活動についてご紹介しました。

本シンポジウムの内容と登壇者は以下の通りです。

総合司会：佐々木 宏之 准教授（災害医療国際協力学分野）

■開会の挨拶 今村 文彦 所長（津波工学研究分野）

第1部「新型コロナウイルス感染症の過去・現在・未来」

基調講演 押谷 仁 教授（東北大学大学院医学系研究科微生物学分野）

トークセッション 座長：千田 浩一 教授（災害放射線医学分野）

第2部「コロナ禍でも被災者の生命、身体的・精神的健康を支える！」

趣旨説明・座長：森口 周二 准教授（計算安全工学研究分野）

話題提供

1 中村 直毅 准教授（東北大学病院メディカルITセンター）

2 児玉 栄一 教授（災害感染症学分野）

3 國井 泰人 准教授（災害精神医学分野）

4 蝦名 裕一 准教授（災害文化アーカイブ研究分野）

パネルディスカッション

■閉会の挨拶 丸谷 浩明 副所長（防災社会推進分野）

第1部では、政府の新型コロナウイルス感染症対策分科会委員として第一線を担う専門家である押谷仁教授を招き、「新型コロナウイルス感染症のこれまでとこれから」と題して講演いただきました。この3年間、日本社会は対応に不慣れな新興感染症に接し、社会制度、医療体制を都度変更してきました。コロナ禍初期と現在ではウイルスの性質、対応も大きく異なっており、改めてこの3年間の社会変遷、これからの新興感染症との付き合い方について説明いただきました。その上で、新型コロナウイルス感染症のこれまでとこれからについてトークセッション（質疑応答）を通して理解を深め、そしてコロナ対策について少々緩みかけていた気持ちを改める機会になりました。

（次頁へつづく）

第2部では、基調講演で明らかにされた新型コロナウイルス感染症の現状を鑑み、「コロナ禍における医療体制提供のための DX の実践」、「コロナ禍における被災者の感染症対策」、「コロナ禍、戦禍におけるメンタルヘルス」、「歴史からみる感染症流行と社会対応」の4つの視点で、当研究所等の研究者に「コロナ禍でも被災者の生命、身体的・精神的健康を支える！」について話題提供いただき、パネルディスカッションおよび質疑応答を通して理解を深めました。

本シンポジウムの準備・運営は、東日本大震災メモリアルシンポジウム 2023 ワーキンググループ（千田浩一・佐々木宏之・森口周二・ボレー セバスチャン・蝦名裕一）と広報室（鈴木通江）が担当しました。

また、展示ブースでは、「災害レジリエンスの実現に向けて ―災害研 10 年目の新たな取組―」と題して、今年度から当研究所に設置された「災害レジリエンス共創センター」、トルコ・シリア地震の調査研究などの新しい取り組みと災害研全体の紹介を行いました。このブースの企画運営は、展示 WG 及び産官学連携 WG、広報室が担当しました。

文責：千田浩一（災害放射線医学分野）



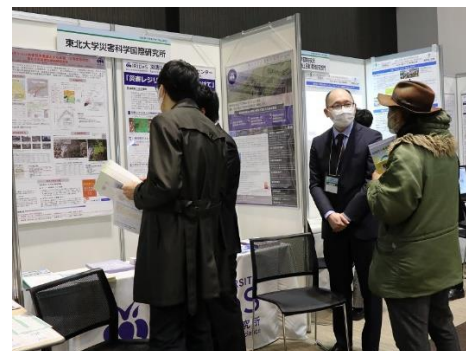
押谷 仁 教授による基調講演（第 1 部）



パネルディスカッション（第 2 部）



会場の様子



展示ブースの様子